

地域再発見プロジェクト



越後湯沢駅ステーションルネッサンス(2期)

1. 地域活性化に取り組む

わが国を取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化、都市への一極集中などの進展により、経済面だけでなく、それぞれの地域が持つ文化や伝統、技術の存続といった面からも、大変厳しい状況を迎えています。

このような状況の中、鉄道ネットワークを基軸としたJR東日本グループの事業展開を継続・拡大するためには、それぞれの地域が持つ魅力を高めることで、地域間の流動をつくり出していく必要があります。

これまでも、JR東日本グループでは、デスティネーションキャンペーン(DC)や重点販売地域の設定、駅ビルや駅構内での地域物産の販売や各種のイベントなどを通じて、地域と共に、観光資源の掘り起こしや二次交通の整備、地域情報の発信などを積極的に行ってきましたが、こうした経営環境を踏まえ、「グループ経営ビジョン2020 -挑む-」のもと、グループが一丸となって、さらなる地域の活性化に取り組むこととしました。

2. 「地域再発見プロジェクト」とは

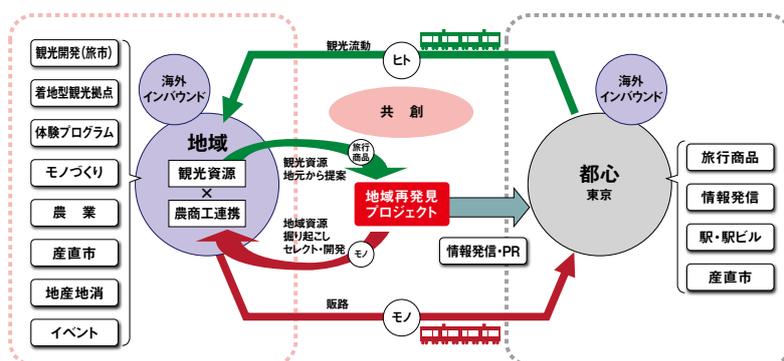
2009年9月、JR東日本は、地域との取り組みを加速し、着実に成果をあげるために、鉄道事業と生活サービス事業の横断プロジェクトとして「地域再発見プロジェクト」を立ち上げました。

「地域再発見プロジェクト」の基本的な考え方は、地域との連携を強化し、地域と共に知恵を絞る「共創」戦略をベースとして、JR東日本グループと地域が役割を明確にしながら持続的に地域活性化に取り組む、ということです。

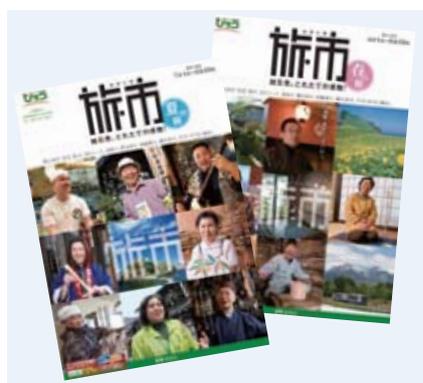
そこで、すでに販売を開始していた、「地域に根ざした風土・文化」「地産地消」「人とのふれあい」をコンセプトとし、地域の方々が考え、地域の方々がお客さまをご案内する旅行商品「旅市」を活用し、着地型観光という新たなマーケットの創造を図るとともに、地域の方々が、地元の観光資源を見直すきっかけとして「岩手・花巻を再発見シンポジウム」を開催するなど、各地域における自律的な観光開発への支援をスタートしました。

また、「地域再発見プロジェクト」では、JR東日本グループが有する、地域と地域を結ぶ鉄道ネットワーク、地域の拠点としての駅、エキナカ・駅ビル・ホテルなどの事業ノウハウ、首都圏を中心とした販路・広告媒体、地域の一員としての人材といった強みを活かしながら、伝統文化・祭り、伝統技術、地産商品といった魅力ある有形無形の観光資源の発掘と、販路の拡大、首都圏と地域の双方向での情報発信を図っていくことを方向性としています。

このような取り組みを通じて、人とモノの交流を図り、首都圏と地域間で大きな循環を生み出すことで新たなマーケットを創造し、東日本エリアにおける地域の活性化と、JR東日本グループの将来に向けた経営基盤の強化を実現することが、「地域再発見プロジェクト」の大きな目標です。



地域再発見プロジェクト



旅市



岩手・花巻を再発見
シンポジウム

3. 具体的な取り組み

「地域再発見プロジェクト」では、まず「①社会的責任、社会的貢献」「②地域との連携」「③鉄道ネットワークと生活サービス事業の相乗効果」という観点から、これまでの具体的な取り組みを深度化することから着手してきました。

具体的には、長期滞在型ホテル「フォルクローロ」「ファミリーオ」では、施設のリニューアルを核とした地域活性化策を推し進めてきました。

その一つ岩手エリアでは「フォルクローロいわて東和」を菜園併設型オーベルジュとしてリニューアルしました。新設の地産地消レストランでは、地元の旬の食材を活かした新・郷土料理を提案するとともに、収穫体験など地元の生産者などと連携したさまざまなプログラムを展開するなど、ご利用者だけでなく、地元の方々にも喜ばれています。

館山エリアでは「ファミリーオ館山」においてサンドコートや人工芝コートの新設するなど、スポーツをコンセプトとしたホテルとしてリニューアルを実施しました。さらにヨガ、シーカヤック、ノルディックウォーキングなど南房総の大自然を活かしたさまざまなスポーツアクティビティの展開やスポーツ大会の誘致を実施するなど、お客さまのニーズを広げています。

越後湯沢エリアの地域活性化では、駅を地域観光の玄関口と位置づけた「越後湯沢駅ステーションルネッサンス(2期)」を実施しました。地域色あふれる名産・物産の商業空間「がんぎどおり」を駅構内に開発するとともに、地元の観光協会などが連携して運営する広域観光案内機能やレンタカー機能などを統合した着地型融合店舗「ビジターセンター」も開発し、外国人のご利用者が大きく増えるなど、お客さまから好評をいただいています。

また、これらのエリアでは「旅市」を戦略的に展開しているほか、地域と協力して当社のデジタルサイネージ向けコンテンツを製作・放映するなど、JR東日本グループが有する交通媒体や旅行商品を活用し、地元と都心の双方向の情報発信と、観光流動の創造を図っています。

地域製品の活用や販路の拡大という面では、当社グループ会社と連動した取り組みも広がっています。地域の行政・団体・生産者などとの連携を強化し、地産品や伝統工芸品の発掘、農産加工品の開発、産直市の展開などが図られ、地域資源や地域産業の活性化に貢献しています。



フォルクローロいわて東和



ファミリーオ館山

4. 今後の展開

「地域再発見プロジェクト」では、引き続き、地域活性化策をエリア別に推し進めていく予定です。例えば、東北新幹線新青森開業や地元・青森市のまちづくり構想との連動・連携が見込まれる青森ウォーターフロントエリアでは、日本一の生産量を誇る青森県産「りんご」を活用した「工房」「市場」の複合施設の建設を計画中です。

また、こうした取り組みを、より力強く継続するために、「共創」戦略のもと、地域の行政・団体・生産者をはじめ、学校や企業なども含めた地元の力を活用しながら、JR東日本グループの社員一人ひとりが担う新たな役割として地域活性化を推進していきます。「地域再発見プロジェクト」では、2010年度中に、こうした進め方に必要な仕組みや体制づくりを行い、JR東日本グループの新たな挑戦を加速させていきます。



青森ウォーターフロントエリア 「FACTORY&MARKET」(仮称)